

重症心身障害施策について 要 望

日頃より、重症心身障害施策に、格別なご配慮
を賜り深く感謝申し上げます。

平成21年11月26日

社会福祉法人
全国重症心身障害児(者)を守る会

親の運動の歩みと社会的背景

- ① 法の谷間にあった重症心身障害児・者
児童福祉法があっても対象からはずされていた。
- ② 親の困窮状態は深刻
重症心身障害児・者に対する社会の偏見、家庭崩壊などの社会問題となっていた。
- ③ 社会の偏見・国の姿勢
社会の役に立たないものに国の予算は使えないとの差別・偏見があった。
- ④ 福祉を求めての親の運動——社会の共感を深めることが原点
昭和39年 全国重症心身障害児(者)守る会を結成
最も弱いものを一人ももれなく守る — 会の三原則 —
どんなに障害が重くとも、この子たちは懸命に生きています。その命を救ってください。社会の一番弱いものを切り捨てる社会は、いずれその次に弱いものを切り捨てることにつながり、決して幸せな社会とはいえない。
と訴え理解を深める運動を展開している。

会の三原則

全国重症心身障害児(者)を守る会

- 決して争ってはいけない
争いの中に弱いものの生きる場はない
- 親自身はいかなる主義主張があっても重症児運動
に参加する者は党派を超えること
- 最も弱いものを一人ももれなく守る

この子らからのメッセージ

可能性への発達

障害が重く何もできない、と思われているこの子どもたちの真剣に生きている姿、にっこりと笑う笑顔や純粋な心は、かかわる人々に感動を与え、人を癒したり、人の心を変えたりする力があります。

この重症児の「いのちの輝き」の無言のメッセージを、一人でも多くの社会の人々に伝えていくことが、糸賀一雄先生のおっしゃった「この子らを世の光に」ということにつながっていくことになります。

どんなに障害が重くても、一人ひとり可能性を持ち懸命に生きています。そして、その営みの中のささやかなサインに気づく私たちの素直な心、思いやり、やさしさが相互に作用したとき、そこに思いも及ばない可能性を見るのです。

この子らのもつ光を、更に輝かせていくことが私たちに与えられた重要な使命であることを日々教えられるのです。

重症児をもつ親の人たちは、この子らを授かったことによって、多くのことを学びました。命の尊さ、可能性、優しさ、家族や人々との絆、普段では体験することのできなかったものを気付かされたのです。

新法への要望

1 利用者負担について

負担の軽減はありがたく感謝いたします。

ただ、社会の理解をいただくためには、親としての責任と義務を果たすうえで、適正な負担は必要なことと思います。

2 施設給付の日割り方式について

利用者にとって、複数のサービスを利用するためには、日割り方式が適切なものと受けとめています。

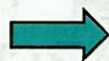
3 新体系への移行について

障害者の地域移行の促進は重要であり、新体系への移行をしっかりと進めていただきたいと思います。

障害児については、障害児支援見直し検討会報告を新法に取り入れていただきたいと思います。

重症心身障害施策についての要望

重症心身障害児・者
約 38,000人



重度の知的障害と重度の肢体不自由が重複した人
(医療的ケアを必要とする人たちが主である)

重症心身障害施策

施設入所支援

重症心身障害児施設

- ① 児童から成人までを一貫して入所支援する施設体系の維持
- ② 医療機能(病院)を備えた福祉施設であるため、医師、看護師の確保
- ③ 超重症児(NICU退所後の支援など)の受入れ体制強化

在宅支援施策

- 短期入所 ——— 医療的ケアが実施できる短期入所の受入れ施設の確保
- 介護人派遣 ——— 重度障害に対応できる技能を持った人材の確保
- 訪問看護 ——— 訪問派遣時間を利用者の必要に見合った時間に
- 通所 ——— 利用者の実施要望に応えるため実施ヶ所の拡大と事業の法定化

支援の実施主体

市): 専門的な支援確保の観点から現状維持

参考

重症心身障害児施設の法体系現状 (児者一貫の体制)

児童福祉法（昭和42年一部改正により設けられた）

（重症心身障害児施設）

第43条の4 重症心身障害児施設は、重度の知的障害及び重度の肢体不自由が重複している児童を入所させて、これを保護すると

ともに、治療及び日常生活の指導をすることを目的とする施設とする。

（都道府県がとることができる措置）

第63条の3 都道府県は、当分の間、必要があると認めるときは、

重度の知的障害及び重度の肢体不自由が重複している満18歳以

上の者について、その者を重症心身障害児施設に入所させ、又は指定医療機関に対し、その者を入院させて治療等を行うことを委託することができる。

あけぼの学園のみなさんへ

おたさんこんにちは。先日は大変お世話に
なりました。

私をお世話や、申イヌ体験をとおして、障害を
持ったの大変さ、命の大切さを学びました。

最近はお殺人や自殺のニュースがテレビを

つけると、いつもやっています。私はこんなニュース
を聞くことも悲しくなります。障害を持つた
人々、がんばって生きているのに、人を殺してしま
ったり、自分で命を絶ってしまうなんて考えられません。

もし私がこの先つらいことがあつて死にたくがた
ら、一生けんめい生きているあけぼの学園のみなさんを
思い出して精一杯がんばろうと思います。

周りの人たちにも

命の大切さを伝えて
いけるよう大人に
なりたいです。